

安全人報誌

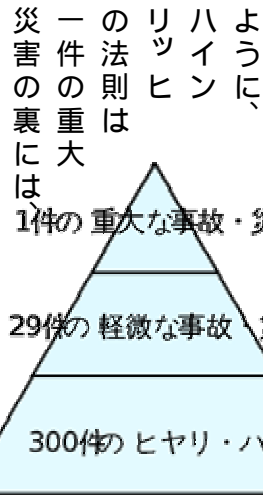
安衛委 No102
平成22年5月20日
安全衛生推進委員会

飲酒運転事故多発

新聞に毎日のように飲酒運転に関する記事が掲載されています。道路交法でも、これほど厳しくなっているにもかかわらず、飲酒して事故を起こす。専務が朝礼で話しをしたように、田村署になつて四月だけで、三件の飲酒運転事故が発生しています。

軽微な災害に注意

安全大会の講演で話しが、ありました



事故報告から、飲酒すると運転操作が不安定となるうえ、気が大きくなり、シートベルトをしなかつたり、スピードを出しすぎる傾向があります。飲酒運転で事故を起した場合、運転者本人の治療費は自動車保険から支払われません。被害者がいたら、被害者にも保険からは満額が支払われず、遺族との交渉にも時間と労力が必要になります。加害者は職を失い、家族崩壊に陥ることになりかねませんので、絶対に飲酒運転はしないようにしてください。

二九件のかすり傷程度の軽災害がありその裏には怪我はないけどヒヤットした三〇〇件の体験があるというものです。毎日移り変わる現場で、同じ作業は一つとしてありません。自分は安全と思つても、他人からみたら危ないと思うところがあると思います。怪我をしてからでは間に合いません。怪我をする前に声を掛け合うなどして、小さな危険を摘み取つて下さい。ヒヤリとしたことは、みんなに話しをして

おいてください。

平成二十二年安全標語

決めた事

続ける事を心がけ

守る努力が無災害

毎日の慣れた作業

毎日変わる危険箇所

気づいたあなたが責任者

毎日変わる 危険箇所

気を抜くな

慣れた作業も

指差確認

各現場での安全対策又はヒヤリ体験談

初回は林道長根大堀線を担当しました、渡辺敏夫さんです。

林道長根大堀線で通行止めをしてバツクホウで側溝布設の作業をしていたのですが、通行止めをしないので、車両は進入してこないものと思い作業をしていたとき一台のバイクが、バツクホウのそばまで来ていたのでビックリしました。もし気づかずに旋回していたら、大惨事になるところでした。重機の旋回及び後進時には、どんな場所でも必ず確認をしなければいけないと思えました。

横断側溝布設時に、吊り具が壊れていて使えなかつたために、代替にワイヤー2本を使って側溝布設を行いました。吊り具を使用した人達から見ると危ないように思わせました。

